

JaSST'25 Kansai

テクノロジーセッション

技術だけでは要求品質を満たせない ～論理的思考によるメンバー育成から導く品質向上～

株式会社ベリサーブ

ICT事業本部 製造システム事業部

上垣 颯太

2025年6月27日

自己紹介

- 上垣 颯太（かみがき そうた）
 - 株式会社ベリサーブ 新卒入社6年目
 - 出身：大阪府
 - 趣味：野球観戦(広島カープファン)、ポケモンGO

業務紹介

- 製造業における搬送システムの検証
 - FA (Factory Automation)
- テスト計画～設計～実行～報告

メンバー育成で苦勞していることは
ありませんか？

メンバー育成がうまくいかないと…



メンバーの成長が期待と大きく乖離

このような状況に直面したときに重要なこと

- ①感情的にならないこと（理性的でいること）
- ②現状を把握し、適切な期待値を持つこと
- ③少しずつでも確実な変化を起こしていくこと

この考えを持って、改善を目指した事例をお話しします

経緯

テストチームに新メンバーが入りました。
いつも通りにフォローし始めましたが…

- ・ 何度指摘しても、同じミスをしている
- ・ 学んだことから応用が利かず、正しい判断ができない
- ・ 生産性が上がらない

経緯

人それぞれ得意・不得意はありますし、
すぐにできる人もいれば、時間がかかる人もいます。

しかし、だからといってこの状況を放っておくと…

⇒テスト実行時に判断を誤り、不具合を見逃すかもしれない

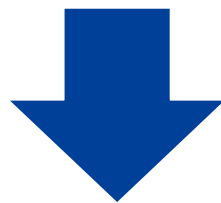
⇒チームとして成果物の品質が下がるかもしれない

⇒(上記を回避するために、)

そのメンバーへのフォロー工数が増えるかもしれない

経緯

自分が知識や技術を持っても、
メンバーを同じベクトルに導けなければ…



せっかく学んだものも生かされず、
チームとして求められる品質を達成できない結果に

変化させたこと

①言い方を変える

ある程度厳しい言葉も交えて？
ポジティブな言葉を豊富に？

人によって適切なアプローチの仕方は違う



同じやり方をし続けて変化がなければ、
今のやり方は適切でないと考えるべき

変化させたこと

①言い方を変える

その際、自分の感情を軸に言い方を決めていたら
適切な言い方になる可能性は当然低くなる

⇒理性的に思考して対処すべき

⇒相手を観察して適切な方法を探るべき

それをやった上でうまくいかないのは結果論
(と割り切って)他の方法を検討

相手は人、正解はない
ダメなときはダメ

変化させたこと

②何ができていないかを可視化する

何がどのくらいうまくいってないかを把握している人は
案外少ない(ように感じる)

⇒把握すれば、

今のやり方や期待値が正しいかが見えてくる

変化させたこと

②何ができていないかを可視化する

例えば、

- ・できていないことが何個もあるのに、
いきなり全てを求めても心理的負担が増すだけ

⇒できる内容/量から順に取り組むべき

⇒適切な期待値を持つべき

(お互いに)

- ・教える側:また期待以下だ…
- ・教わる側:何やっても評価されない…

変化させたこと

例

不具合調査時に行う周辺確認の内容がずれる
不具合を起票したときの記載が冗長で長くなる
記載完了(内部レビュー依頼)までに時間がかかる
日本語的におかしな表現をしてしまう
誤字が多い
手順の時系列が合っていない
添付する画面キャプチャが多過ぎて要点が分かりにくい
自力で調べて解決できる内容を、調べる前に質問してしまう
記載する情報の過不足がある
要点が伝わりにくい文章になる
テスト設計時、確認内容に偏りがある

一気に全て
解決は難しい



ピックアップ！

変化させたこと

③確実に変化できるレベルまで落とし込む

可視化して1個ずつ取り組んでも、
その1個がうまく改善できないこともある

例：工夫して伝えても理解してもらえない…

理解してもらえたと思っても、それを踏まえた行動は毎回意図と異なる…

変化させたこと

③確実に変化できるレベルまで落とし込む

⇒改善事項を、より具体的で小さな内容に落とし込むべき

⇒小さなことでも、確実な変化を起こしていく

例：分かりにくい文章を書いてしまう人に対して

→「〇〇」という表現は使わない

適切なタイミングで報連相できない人に対して

→一定時間ごとに必ず状況報告を行うルールにする

分かりやすい文章書いて！



できないかも

この表現は使わないで！



やろうと思えばできるはず

変化させたこと まとめ

①言い方を変える

⇒感情論に走らず、論理的に考えて最善を探るべき

②何ができていないかを可視化する

⇒適切な期待値を持って、改善に取り組むべき

③確実に変化できるレベルまで落とし込む

⇒小さなことでも変化を起こすべき

他の対策

- ・ 上司/チームメンバーに相談

⇒ 人との関係性の問題もあり、1人で対処するのは
リスクがあるため、常に状況を上司やチームと共有しておく

- ・ 社内研修を受講し、手法やコツを学ぶ

⇒ ベリサーブ内では多種多様な研修あり
知識から得られるものも活用する

結果

- ・ 全て改善とはいかずとも、できることは増えた

(副次効果)

- ・ 教える側の気持ちが楽になる

⇒現状を嘆くより、どう改善するか考えることに集中

- ・ (改善できなくても)客観的な判断材料ができる

⇒上長/上位組織に「本人の適性に合った」配置の必要性を
訴える情報に

まとめ

- ・ 総じて、重要なのは理性的でいること
 - 理性的でいるから現状把握しようことができる
 - 状況に振り回されず、最善策を考えようことができる

⇒ 理性的に考えることは良い結果を出すことにつながり、
教える側/教わる側双方の心理面にも好影響を与える

まとめ

- ・ 人間は「感情の生き物」？

- 感情的でいることの言い訳によく使われているが、
同時に「理性の生き物」でもあるのでは

- ⇒理性は感情をより良くするための手段でもあるはず

- ・ 変わるのは少しずつでいい

- それこそ理性的に考えれば、いきなり理性的になろうと思っても
難しい

- ⇒自分自身にも少しずつ小さな変化を起こしていければ



ご清聴ありがとうございました

株式会社ベリサーブ

広報部

<press@veriserve.co.jp>

TEL：050-3640-8194

住所：東京都千代田区神田三崎町 3-1-16

神保町北東急ビル9階

25-001



イノベーションを加速させる
知恵と品質技術にアクセスする
テクノロジーライフメディア

www.veriserve.co.jp/helloqualityworld/